

# 諦めずに前へ

八頭高  
教員、生徒

## 懸垂幕や書道作品 大会中止で落胆生徒にエール

諦めずに前へ進んでほしい。新型コロナウイルス感染症拡大の影響で部活動のさまざまな全国大会が中止される中、八頭高(八頭町)では、落胆する生徒たちに向けた励ましのメッセージを懸垂幕や書道作品で発信。登校時に目にとまる校舎壁面や玄関に掲げている。

懸垂幕は、高校総体(インターハイ)の中止が決まった5月上旬、教員が「活躍の場を奪われ、残念な気持ちでいる生徒を励ましたい」と発案。教員からメッセージ案を募り、集まった約20の案から生徒会執行部の生徒たちで選んだ。従来は各部活動の活躍を知らせ



励ましのメッセージをしたための書道作品と書道部員



生徒に励ましのメッセージを贈る懸垂幕

る懸垂幕が掛かる校舎壁面に、縦8・4横1.4の「今、強く前へ進め! がんばれ、八頭高生!!」という大きなメッセージが22日から掲げられている。

大会中止でモチベーションが下がってしまった生徒もいる中、メッセージを考えた山口香織養護教諭は「今も大事な時。負けずに頑張ってほしい」と気持ち

を込めた。「私たちも書道パフォーマンス甲子園が中止になり、悔しい、悲しい気持ちでいっぱいだった。でも、みんなで一緒に頑張っている」と伝えたい」と話すのは、書道部員3年の姫田心さん(17)。

書道部は2班に分かれてそれぞれ作品を制作。「まだ諦めたらいけません! 今こ

の時代を精一杯生きよう!!」「自分の弱さに打ち勝つ!!」などとメッセージを考え、力強くしたためた。6月18日まで、作品を入れ替えながら生徒玄関に飾られる。

部員3年の河原陽菜さん(17)は「朝来た時にこれを見て、『やる気を持って頑張ろう』という気持ちを持ってもらえたら」と願う。

菅生宏主幹教諭は「こんな時だが、やってきたことは決して無駄じゃない。一歩前へ進んでほしい」と話した。(渡辺暁子)

日本海新聞  
令和2年5月28日掲載  
(許可を得て掲載しています)